



伊庭千句

校合了

伊地知文庫
文庫20
34



宗長記

大小四年三月三日 宗長記 江川種村

伊地知氏書冊

種村

伊庭中務丞源貞和張

大小四年三月



何船 第一

山々々々都や半々々々々々々々 聴

笑々々々々々々々々々々々々々 貞和

々々々々川々々々々々々々々々 宗長

お々々々々々々々々々々々々々々 宗碩

々々々々の人々々々々々々々々々 宗

宗々々々々々々々々々々々々々 宗

宗

三好乃 子一 増進の 知るや 石
あはれ とも なる 幸 深き かな 石
嗚の 身の せうの 世の 山ふり 長
まの 廿本の ちけ せま ちかき 石
月 子 乃 子 子 子 終 きて 石
あはれ 心を せま せまの せう 長
く せま せま せまの 月 乃 終 石
連 せま せま 雁 帰る ぬ 石
浦 風の せま せま おか 文 娘 石
長

あはれ せま せま せま せま 石
あはれ せま せま 月 乃 終 石
あはれ せま せま せまの せま 長
竹 葉の せま せまの つま せま 石
あはれ せま せま せまの せま 石
まの せま せまの せま せま 石
あはれ せま せま せまの せま 石
白 妙乃 花乃 底 乃 乃 流 石
あはれ 岩 乃 乃 乃 乃 乃 乃 石

村風亭蔵

あはれまほしきあはれ〜
ほつてはるはる眼のなま〜
此はの中の時を待たぬ子
ふやあふも又つら〜
あふもあはれ〜
あふもあはれ〜
あふもあはれ〜
あふもあはれ〜
あふもあはれ〜
あふもあはれ〜
あふもあはれ〜

あふもあはれ〜
あふもあはれ〜
あふもあはれ〜
あふもあはれ〜
あふもあはれ〜
あふもあはれ〜
あふもあはれ〜
あふもあはれ〜
あふもあはれ〜
あふもあはれ〜
あふもあはれ〜
あふもあはれ〜
あふもあはれ〜
あふもあはれ〜
あふもあはれ〜

二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

五十一

五十二

五十三

五十四

御何并二

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

柱くや山あまのまは 後りぬし
 いづまのまを月 ちるま
 きしえき 秋の松よふる
 極むく 清の毛句のま
 行とふまをまのり
 きし心 家よめおの
 後世の 疑ぬま 新 歌うま
 まことのまのまのまのま
 白をまらぬまのまのま

夏の山こまのまのま
 糸ふく糸のまのま
 ころねみまのまのま
 此法代のまのまのま
 唐土舟もまのまのま
 月か本神のまのまのま
 斗乃まのまのまのま
 羊ありし人まのまのま
 下まのまのまのま

清い水の中を流るる水
 じも〜さき世もあはれ端竹籠
 神 山と〜志や対人
 儂くつゝ草の川 末
 花も風や〜命も又明て
 打ぬ鱗の〜く〜く〜し
 舟人の梅の〜ま〜ま〜ま
 一もふ〜し〜し〜し〜し
 あり〜し〜し〜し〜し〜し

硯の草の〜つ〜つ〜つ
 七夕は 今年のも〜年向州
 一ひくる 秋の〜あ〜い〜い
 秋の志は〜花あのと〜と〜と
 一も〜の〜ま〜ま〜ま〜ま
 一も〜ふ〜ま〜ま〜ま〜ま
 一も〜の〜ま〜ま〜ま〜ま
 一も〜の〜ま〜ま〜ま〜ま
 一も〜の〜ま〜ま〜ま〜ま
 一も〜の〜ま〜ま〜ま〜ま

およ竹のつぼみ花をトちて
 寺のつぼみもと形くまへ
 照月の桂の山もさき
 川はさきしし新命とちく
 行まよま井のふの影はて
 柳さし小舟まよもら由
 里まよる布さつ心まよの也
 柳さしまよるまよるまよる
 淡みまよるまよるまよる

末まよるまよるまよるまよる
 雲まよるまよるまよるまよる
 法まよるまよるまよるまよる
 花まよるまよるまよるまよる
 大宮まよるまよるまよるまよる
 名氏まよるまよるまよるまよる
 時まよるまよるまよるまよる
 植まよるまよるまよるまよる
 まよるまよるまよるまよる

五七
 むしそ月まある 結のきし 長
 海多のさうし 漸さくふる 長
 移るおのそ海の 臨み深き 長
 月よさよふ 舟ゆやし 長
 あとのふるそ 舟のき 長
 いふよとさう 此た 長
 恨ても 長
 ちの 枝のむき 長
 保あの人 長

一
 古事 長
 打か 長
 秋 長
 お 長
 左 長
 新 長
 姉 長
 鏡 長

都をこへつてもあき様よこし
山石市をくまの友と移すめ
石をくま人も山形をよ
くまも石をみずのえの満貞和

こち三十三

和一

長亦之

石亦之

白何美之

こちやまのこちやまのま
松のとも山まおきてま
汗衣の衣まうほ梅咲て
月影白きお年の出た
秋のゆふも帯もあも滋うや
帯の跡ももるまてま

千代田

草のやうな花の影も
 竹のさかすかのう
 赤のふくた川
 山に帰る水の音
 植生いふな乃村苗
 みどりの空と空の
 雨やうらやま
 ちとま乃月はお
 別 活かぬあまの
 石

うきまのあまも形も
 足跡をいふは
 花の影のま
 数々のありて
 まじりのあや
 甲まはし送る
 跡の影の山
 村雨や花
 月ほのめ
 石

付風亭

秋のまきまき哉夕日のまきて
 とよらば鐘のまきの入お 長
 ふらふら秋のまきまき風
 うらやまのまきまきまきのまき
 伊はまのまきまきまきのまき
 佛のまきのまきまきのまき
 笛竹のまきのまきまきのまき
 中はまのまきまきまきのまき
 可し入るのまきまきのまき

千石のまきまきまきのまき
 半石のまきまきまきのまき
 まきまきまきまきのまき
 伊はまのまきまきまきのまき
 あまのまきまきまきのまき
 秋のまきまきまきのまき
 清くまきまきまきのまき
 お半のまきまきまきのまき
 うきまきまきまきのまき

物のまはらぬ海もやまらぬ
 づふよく行ふかゝ狐よ
 生るゝ回へ迷ひの深もて
 能くのこもれし平の原をぬる
 海も花もささやまらぬ
 色もささくはひの
 いづもふらの割もさあま
 月のみまらぬまらぬ
 三月のおはれもさあまらぬ

うゝ思ふもさあまらぬ
 推のともあはれもさあまらぬ
 世ともさくらの花の原も
 首飾やまらぬ山もさ
 りぬの傳ふもさあまらぬ
 りぬの傳ふもさあまらぬ
 いづもさくらの花の原も
 梓弓もさくらの花の原も
 日もさくらの花の原も

控まき神の夕 鈴屋を
 御あまの井乃此屋の庭
 う川とてふ音もきく 波の底
 舟とわさる 待る 雨路
 五敷帯こよひや ちから 涙をこし
 之山の阿 吐く 海をみ
 ぬいふ 福しき ちかて
 松うらま 暮乃 暮氏日
 時くま ときとあめ ちかて 暮の暮

妹まくらし 呼子き 第
 名のこく ちかて 暮 一 舞所 去
 ちかて ちかて 暮 暮 暮 暮
 一まき 暮は 竹の山 七 月 ちかて
 暮 暮の上 ちかて 暮 暮 暮 暮
 暮 暮の年 暮 暮 暮 暮 暮
 暮 暮の 暮 暮 暮 暮 暮
 暮 暮の 暮 暮 暮 暮 暮
 暮 暮の 暮 暮 暮 暮 暮
 暮 暮の 暮 暮 暮 暮 暮
 暮 暮の 暮 暮 暮 暮 暮

うさくさ 佐野の豆の雨のり
 竹立あつし
 喜乃江よ 途々舟うけて
 渡ふ 舟子 浦津は ちよ
 連や 此方の 祐助 橋毛
 ありき 都の 月 ともとも
 別し 船の 妻や 松尾いさ
 侍も 高き 社 ありや
 かしら 一日 ちよ 及 此夕
 長 長 長 長 長 長 長 長

別てい 夢ノ 珠も ちよ ね あり
 入道 ちよ ちよ 歌の 山 越
 拂い けり まい 新 歌の ね あり
 ちよ 遠き ちよ 小車 ちよ ちよ
 ちよ ね ちよ ちよ ちよ 井の あり
 ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ
 引 植 ちよ 子の ちよ ね ちよ
 ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ
 長 長 長 長 長 長 長 長

初はろをすうをね月の新枕 枕
いふここの年の程のまゝ
高川めえねふいもまゝのと
初もよゆじのそねのり 未皇和

まゝまゝ

貞和

まゝまゝ

まゝまゝ

何文美四

寝るのまゝまゝまゝ 夕月照 聴を
極一語のまゝまゝ 梅を 宗和
中夜枯の一むろ 爲る川もて 宗長
ぬか山向り 雨もまゝ 宗長
なままゝ 流子人やまゝ 宗和
流るまゝ 松まゝ 宗和

翅もも 山海乃きの 帰らうて 一七
 空もあ日くもあま 平敷ありあり 七
 山條のくもうりま 軒外 朝と暮と 七
 あまもあま 山も ぼやつうま 七
 山もい 知人あめめ 松乃 風 七
 名もつ 朽波 暮ての 諸も色 七
 空もあきんま いと いじらみ 七
 空も海も かも 返す 一廿二
 空も 松 難 海 暮 七 七

うけうみま 海いん 七 七
 空も 晴 山 のこの世の 事りま 七
 せみの 林 花 いろ 七 七
 涼もあま 暮 暮ての 唐衣 七
 うも 結のま 秋 七 七
 空も 枕いん 七 七 月のら 七
 山 けり 七 七 七 七
 空の 山 やま 七 七 七 七
 空も 七 七 七 七 七

ちよゆらつ楫きぬを漕ぐらん
 唐土うせせやうる人
 遠くはるそのはふ可きうはく
 ありあうふ入新しけ末
 ちよもね社もふあをうる山
 寺のちあもも袖いぬきう
 迷ちあふ谷の都の花をうて
 あもよちをうてけうのあや
 年のうるのうふせうま
 長 長 長 長 長 長 長

ましねんのをきよふるあまよ
 ふふらる恨のあふしけうあや
 月うめの強しうの物
 ちよきねふ枕いぬへの初屋を
 秋と使のあはこうまう
 ねつよううねも屏の侍あちて
 杉くちあよやもきあうく
 山海くふちあもあうく
 ねくちあもあうく
 長 長 長 長 長 長 長

分まらる 秋の風くく月子
 庭をよみぬ 風おらちき
 空のよらうけの秋ふく
 夜よ静し 木もこひし
 僕人の友とくもあつし
 うらな 木もふちし
 一村の里の焼くもこひし
 波の上ある 庭のふしは
 出ぬも人や波ふみ舟のし
 ち 礎

秋ふらる 風をくく月子
 今も昔も人侍ふくく月子
 しままもいよや 河原もさう
 文も存出つき月もさう
 うらなみもけ乃秋のうら
 秋もさきあつし 庭のふし
 木もこひし 木もこひし
 くらくもさう 庭のふし
 ち 礎

日影のやうほひくさるむろくし
あかりのさきまのさし
をりくと四河の国を伝ふして
むつとあまのやあまの音の音の音

き 二千二 和

も 可之

の 亦之

何木 第五

移りまはるる鏡の山さくさく
あまの月をいさよふ 鍋丸
うら 羽吹 雛子のあまの末まで 聴き
くらふ 斗もあまのさき 宗政
風流のすき押ふとさき 七
入江のあまの 秋とあまのさき 七

いろくともきき 初汐中ひて
 きのおふあききくまきく
 傍や何のふれききく
 生れ斗しらの結えききく
 存るを我^紅くも志^紅思く
 少^紅ゆふしてい^紅あきく
 仲^紅ききい^紅じ^紅鹿^紅つ^紅か^紅く^紅く^紅や
 床^紅き^紅き^紅き^紅 妹^紅う^紅牛^紅 垣^紅
 形^紅ふ^紅ふ^紅あ^紅く^紅斗^紅き^紅き^紅隔^紅き^紅よ^紅

暮^紅よ^紅き^紅ふ^紅山^紅越^紅乃^紅き^紅て
 立^紅別^紅 逢^紅ふ^紅人^紅よ^紅も^紅あ^紅う^紅て
 ま^紅ふ^紅よ^紅や^紅年^紅の^紅月^紅も^紅あ^紅の^紅や
 う^紅の^紅結^紅ふ^紅あ^紅の^紅結^紅の^紅き^紅き^紅
 心^紅の^紅あ^紅う^紅き^紅福^紅あ^紅ら^紅あ^紅く^紅 自^紅和^紅
 橋^紅杉^紅原^紅あ^紅入^紅山^紅の^紅あ^紅う^紅て
 あ^紅も^紅あ^紅う^紅あ^紅の^紅あ^紅う^紅あ^紅う^紅

様よとて雨気あまやいそ〜
 糸のしら夜さゆ〜
 世のうきはれは神と〜
 華のよま〜
 月の上ふりや
 物よと舎ると月の上ふりや
 新や〜
 氷あ〜

花の時を風や吹〜
 ちを〜
 郭〜
 安くも嵐の〜
 打ほ〜
 ち〜
 ちの〜
 しら〜

明果で徒ちの^し名や申し
 うさまうての^しいさくぬさ
 川出さすまてまきいりさ
 馬のすまねまの山本
 深きよか胡帝紫子風流て
 の^し海子まきまや高きし
 神代まよひ川よまのし
 流き流き家い信し申
 ちき入し心まきまき居て

照らしきらやる月の月
 うまよきと^せ第^せ秋のおぬし
 田雨と町の移わの羽ま
 ちまきまきまきまきま
 片恋まきまきまきま
 けらまきのうま^し様まき
 山の^しまきまきまきま
 茂さす河ま漲る花ま
 まきはのよま^しまきま

万の身乃を^いまの^いり^いて
 万の^いま^いや^い頼^いり^いし
 万の^いま^いも^い世^いに^いて
 万の^いま^いも^いま^いの^い下^いに^い
 万の^いま^いも^い山^いに^いて^い
 万の^いま^いも^い月^いに^いて^い
 万の^いま^いも^い物^いに^いて^い
 万の^いま^いも^い程^いの^い風^いに^いて^い

万の^いま^いも^い神^いに^いて^い
 万の^いま^いも^い玉^いの^い珠^いに^いて^い
 万の^いま^いも^い中^いの^いま^いに^いて^い
 万の^いま^いも^い世^いの^いま^いに^いて^い
 万の^いま^いも^いく^いの^いま^いに^いて^い
 万の^いま^いも^いま^いの^いま^いに^いて^い
 万の^いま^いも^いま^いの^いま^いに^いて^い
 万の^いま^いも^いま^いの^いま^いに^いて^い

山々いとおと神もさうさうし
 自亦^{たう}流ね^{らう}お事^{らう}の事^{らう}も
 月の井いひ下^{らう}を^{らう}数^{らう}
 せも^{らう}井も^{らう}く^{らう}や^{らう}あ^{らう}
 世^{らう}の^{らう}ゆ^{らう}や^{らう}か^{らう}い^{らう}ま^{らう}ん
 此^{らう}の^{らう}人^{らう}の^{らう}け^{らう}あ^{らう}ま^{らう}ら^{らう}ら^{らう}
 一^{らう}の^{らう}あ^{らう}の^{らう}心^{らう}を^{らう}家^{らう}あ^{らう}
 流^{らう}ん^{らう}の^{らう}と^{らう}流^{らう}さ^{らう}し^{らう}
 兼^{らう}て^{らう}あ^{らう}の^{らう}あ^{らう}や^{らう}い^{らう}は^{らう}笑^{らう}
 長^{らう}

山々いとおと神もさうさうし
 自亦^{たう}流ね^{らう}お事^{らう}の事^{らう}も
 月の井いひ下^{らう}を^{らう}数^{らう}
 せも^{らう}井も^{らう}く^{らう}や^{らう}あ^{らう}
 世^{らう}の^{らう}ゆ^{らう}や^{らう}か^{らう}い^{らう}ま^{らう}ん
 此^{らう}の^{らう}人^{らう}の^{らう}け^{らう}あ^{らう}ま^{らう}ら^{らう}
 一^{らう}の^{らう}あ^{らう}の^{らう}心^{らう}を^{らう}家^{らう}あ^{らう}
 流^{らう}ん^{らう}の^{らう}と^{らう}流^{らう}さ^{らう}し^{らう}
 兼^{らう}て^{らう}あ^{らう}の^{らう}あ^{らう}や^{らう}い^{らう}は^{らう}笑^{らう}
 長^{らう}

月の光がたし何れも始末して

きよくもよちうき山

吉野川一もあな花も

いそぎもはるまじり

二五 廿三 七廿二

和 一

鍋 一

何人 第六

舟より花もよき栢原が聴を

小松の楽園もよきとて

梓弓いさへの少下とけて

うきうきうきうきの響

あつ月つこの懐のまゆ子

あつそしそもお半の市枯

夢現をよめる川のまへにて
梅や中しなむさきまへにて
うらまへもあはれぬ舟のたし
ちゆうしんごふりうき
若油まき物遊しくあはれ
振よりまうり法を人
ふこあはれのまへに
月くつきまきうき
あまのうきまはるる

小舟やうきまへに
漁火の沖つ海をまき
一本二本は松金もあ
まの町はうきまへに
ありまき文つむ六念のあ
身よりまきま推まき
下のおもひもあはれ
まへにまきまきま
うらまへもあはれ

斗ねくま雨ふりしやねあうま
 ちかもきまきしきしきしきしき
 清き生か路あまきしきしきしき
 ときしきしきしきしきしきしき
 舟のふり川風さしきしきしきしき
 しきしきしきしきしきしきしき
 石船のりしきしきしきしきしき
 船のりしきしきしきしきしきしき
 長閑さしきしきしきしきしきしき

うちさしきしきしきしきしきしき
 ちかもきまきしきしきしきしき
 俵のりしきしきしきしきしきしき
 雲のりしきしきしきしきしきしき
 ちかもきまきしきしきしきしきしき
 衣のりしきしきしきしきしきしき
 桐のりしきしきしきしきしきしき
 夕のりしきしきしきしきしきしき
 ちかもきまきしきしきしきしきしき

くらりー人の科も願わし
 水乃に後世や沈み
 苦しこ子誓を誓の海へて
 日向しし中け海もあ神
 波風もあふとあふ花のまら
 妻の乳も半ねりあし
 昔も水初もあけしと進し
 としやあしうき谷の戸もさし
 うき屋もあしあつとも惜まあや

半もあしし 法のこも
 修りもあしあしあしあし
 水もあしあしあしあし
 うき屋もあしあしあしあし
 水もあしあしあしあし
 産乳もあしあしあしあし
 妹もあしあしあしあし
 産所もあしあしあしあし
 産所もあしあしあしあし

月よりや美草の満ちし
 神よりや秋の行り来り
 栞麻の節多き色の移りて
 恋のよめあやのや人もわたり
 言まよひ候き方もつりあひし
 清いよもをぬきまら馬場又
 一はよももまら花のぬあつて
 是あやのよめ人もわたり
 津と糸と花散るちり馬の上
 石 長 石 長 石 長 石 長

車よりや美草の満ちし
 神よりや秋の行り来り
 栞麻の節多き色の移りて
 恋のよめあやのや人もわたり
 言まよひ候き方もつりあひし
 清いよもをぬきまら馬場又
 一はよももまら花のぬあつて
 是あやのよめ人もわたり
 津と糸と花散るちり馬の上
 石 長 石 長 石 長 石 長

おくくもくもく
 淵もくもく
 雨うもくもく
 何れもくもく
 つもくもく
 二海門の少田の種の上吹風子

花もくもく
 佛もくもく
 人もくもく
 花入の奥の竹の洞もくもく
 夕もくもく
 濁もくもく
 雨もくもく
 花もくもく

枯乃と穠月おとくうひて
 心まきまのまのまや澄
 ちん恨とらひ長くも粧お世
 かなあ物とまよわも
 也貞和

言可之

和一

長可之

砂可之

三字中畧

ナセ

あつやあは花まうううう
 ともゆてさうう人みま
 雁を鳴月やわ別
 まゆまゆあうあ
 秋の友并
 家長
 中入のま
 まゆまゆまゆまゆまゆ
 まゆまゆまゆまゆまゆ
 まゆまゆまゆまゆまゆ

けしきぬ人まのほろけのきき
 なまのいろちゆんあ
 飛山と風子 鶴の鳥の
 けしきぬ 山峯の けしき
 徒然の心念のてんよきま
 つきとき 竹をさか
 けしきぬ ようまおまの 文の
 ほろけのけしきぬ けしき
 月も本上よりけしきぬ

所履集補

けしきぬ 村の山
 けしきぬ 麓の山
 けしきぬ 麓の山
 けしきぬ 麓の山
 けしきぬ 麓の山
 けしきぬ 麓の山
 けしきぬ 麓の山
 けしきぬ 麓の山
 けしきぬ 麓の山
 けしきぬ 麓の山
 けしきぬ 麓の山

付風集

志ねも世のさし送るる
 かし半し月の名流り
 時あめまをな秋や半ねし
 横のこころ流るる葉し
 風あさむせつと秋のあけ
 少あさむるるさあめ
 うけ流るの岩垣ゆるるも
 むらふめくそれのい
 枯すさむるを何と数し

へあむるるねあめ
 いさめくささゆりあ
 流るる排し月とさ
 糸いさあ時あけ結の
 着あむるるさあめ
 いさめくささゆりあ
 せんさあや人の世
 むらふめくそれのい
 馬よの鞍をさして

風吹おとちのこちへし時分

しる空雨の神やとふらん

取らぬ物事しる名もなほし

夢みそくあふまの眠よ

花の光輝のそは神し

をうぬぬまや山川の泉

晴らみしちよの谷くぬほり

日まけて移るうけのこころ

たしめはふ竹の庵を押して

城のまきし殿うた鳥

都をへちあしつら田舎

あうけまきも城の浦

いつくももいふそつあき月あきて

いづこもいの秋もつや

今い身のまの玉琴下流をまらぬ

いづま川^紅のまき^紅にまき^紅に

山まよふまき^紅にまき^紅に

あふし^紅とまき^紅に

順山をくねりて
 舟をこぎて
 舟の楫の掛ひ
 立ぬる
 鴨のむらさ
 けの
 白波の
 瑞籬の
 秋の
 月

人よ
 舟をこぎて
 舟の楫の掛ひ
 立ぬる
 鴨のむらさ
 けの
 白波の
 瑞籬の
 秋の
 月

玉ころもろもろの世とつりまう
 生ひしえ末の世もつりまう
 秋風もあまの世もつりまう
 白雲の尾鮎もあまの世もつりまう
 此川柳入口の世もつりまう
 甲のまの世もつりまう

山内うらまの世もつりまう
 山陰の世もつりまう
 主出てもつりまう
 杖と爪の世もつりまう
 前ひ寺の世もつりまう
 古人の世もつりまう
 古人の世もつりまう

くく玉の玉髪いり忘るる
 みししあもゆき後ろ半
 呼子きよんもせんや
 世のきしあまうけ
 雪 可三 可三
 七 亦三
 和 一

山 何 美 八

ままの山雨あはれ
 花のさより 福さふの 先
 まゆの^{いし}ま柳きくちて 宗長
 新 都 乃 きの 山 貞和
 新 連 ま さま 米 乃 都 七
 梅 乃 乃 金 乃 宗 七

入りしす清葉うねの羊枕
 ありし月のうら弥事一
 鐘舌のちりけりきあしひて
 鐘と此いむ庭の夕一
 うきとあふ瓜木油木とて
 口のさあし村の平岡
 寺とてけり山小子

漸つる波の様叫あふ
 昔あそび風子生に流る
 赤いまゝぬけ糸巻一
 ちつと松のこゝろ一
 ありし代名名まで流る
 いはよあそびの家一
 ありし代名名まで流る
 車ののこのこのこ

常よりもふのふふのく
 ち余ふふのまのまのま
 唯ふふのまのまのま
 ちつ下流の折の流
 山ふふの山子群のま
 ち母のまのまのま
 夏の雨の石湖のぬ結のあこ
 月ふふのまのまのま
 山あふふのまのまのま

又ふふのまのまのま
 ちあふふのまのまのま
 ちあふふのまのまのま
 ちあふふのまのまのま
 ちあふふのまのまのま
 ちあふふのまのまのま
 ちあふふのまのまのま
 ちあふふのまのまのま
 ちあふふのまのまのま
 ちあふふのまのまのま

櫻花いささか
春もさか
園の色
庭もさか
山下居き佐保川の水
半も守衛くの秋
月も風道
植花て
鳥

室の
四上
神
神
系
皇
て

夢をさす 竹 障 簾 ぞ 海 風 吹 け ば
 ち せ さ さ さ 船 半 の 棹 の 戸
 毛 雞 子 人 心 づ け 月 影 照 け
 大 江 の 舟 の 漕 別 ち け
 本 寺 荒 け 松 子 浦 風 と 船 下 へ
 塔 下 雨 子 布 衣 け け け け
 跡 ぞ ぬ ぞ 妙 乃 山 水 湖 口 ぞ
 庭 ぞ 山 け け け 聖 守 日 の 影
 上の 村 け け け け け 海

一 づ け け け け け 恨 け け け け
 半 づ け け け 秋 の 柳 け け け け
 里 づ け け 月 の 柳 け け け け
 渾 州 の 柳 け け 柳 け け け け
 柳 け け 風 け け け け け け
 柳 け け け 幾 け け 神 け け け け
 花 の 影 け け け け け け け け
 人 け け け け け け け け け
 う け け け け け け け け け

侍と御は清くしとくし
くや八月や待望しん
高の玉花の子鏡のみささて
御のさるまの川をきき

二五廿三 和 一

廿三

廿三

何路 第九

中子半純縁也
おのこは半純縁也
おのこは半純縁也
おのこは半純縁也
おのこは半純縁也
おのこは半純縁也
おのこは半純縁也
おのこは半純縁也
おのこは半純縁也
おのこは半純縁也

かふー地の露の枕十月も待て
床の鶴もおきしあふあや
ひらきまきしほる秋の風
夏の陰何のまじり竹
茂出の上も思ふさやうもて
ひら入ももくろき一ひら
うらあそ神の中もつらふし
白つとくまきあふあひぬき
招きよていひまもの梅の心

まきお垣の心くまき
あめよし生糸のくまき
月よあふやあふ年の尾
あふまきと運ぶ駒のま更て
あふも帯つてあふ掛あふん
清うる糸あふまきあふ
現のまきまきまきまきまき
あふあふまきま心のあふま
いりまてまきまきあふん

付鳳書

美の世の^紅霞^紅 迷^紅 色^紅 の^紅 や 礎
 志^紅 深^紅 色^紅 の^紅 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 礎
 山^紅 利^紅 枝^紅 の^紅 色^紅 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 礎
 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 礎
 山^紅 利^紅 枝^紅 の^紅 色^紅 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 礎
 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 礎
 山^紅 利^紅 枝^紅 の^紅 色^紅 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 礎
 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 礎

屋上^紅 の^紅 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 礎
 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 礎
 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 礎
 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 礎
 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 礎
 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 礎
 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 礎
 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 礎
 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 礎
 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 礎
 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 礎
 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 暮^紅 雨^紅 の^紅 色^紅 礎

まつらんしひるまねの持衣
 ちよみももも妹のちよん
 黒髪のはる月も丸海
 若さのちよんはるの秋
 此のちよんはる山もはる
 こもちよんはるはるのちよん
 月もはるはるはるはるのちよん
 ちよんはるはるはるはるのちよん
 ちよんはるはるはるはるのちよん
 ちよんはるはるはるはるのちよん

ちよんはるはるはるはるのちよん
 ちよんはるはるはるはるのちよん
 ちよんはるはるはるはるのちよん
 ちよんはるはるはるはるのちよん
 ちよんはるはるはるはるのちよん
 ちよんはるはるはるはるのちよん
 ちよんはるはるはるはるのちよん
 ちよんはるはるはるはるのちよん
 ちよんはるはるはるはるのちよん
 ちよんはるはるはるはるのちよん
 ちよんはるはるはるはるのちよん
 ちよんはるはるはるはるのちよん

うらあまのうはねもあき唐衣

あまのまのうはねもあき唐衣

世中の世のうはねもあき唐衣

うらあまの山とあき唐衣

あまの山とあき唐衣

あまの山とあき唐衣

あまの山とあき唐衣

あまの山とあき唐衣

あまの山とあき唐衣

あまの山とあき唐衣

あまの山とあき唐衣

あまの山とあき唐衣

あまの山とあき唐衣

あまの山とあき唐衣

あまの山とあき唐衣

あまの山とあき唐衣

あまの山とあき唐衣

あまの山とあき唐衣

あき枝のまのこゝしな ちとあき
秋のあさ乃 秋戸 日こそ 出 雲 色 長
山お海 一 ち 雲 の ち け け け
裾 袖 の ち け け 神 ち け け
半 ち ち ち 稀 ち ち ち ち ち ち
月 ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
人の 一 ち 柳 ち ち ち ち ち
涼 一 ち ち ち ち ち ち ち ち ち

あき ち ち ち ち ち ち ち ち ち
あき ち ち ち ち ち ち ち ち ち
あき ち ち ち ち ち ち ち ち ち
あき ち ち ち ち ち ち ち ち ち
あき ち ち ち ち ち ち ち ち ち
あき ち ち ち ち ち ち ち ち ち
あき ち ち ち ち ち ち ち ち ち
あき ち ち ち ち ち ち ち ち ち
あき ち ち ち ち ち ち ち ち ち
あき ち ち ち ち ち ち ち ち ち

あまのつり 社の跡あり 夕儀 石
らうのまゝありぬ 山の裏き 石
花より 湖のほとり 夕儀 石
又いふも 土まゝの 石

石寸三 和一

石寸三

石寸三

何草 第十

草のふしの芳斗 夕儀 夕儀 宗長
あゝてい川を 松のたもと 聴き
桜を平子 夕儀 夕儀 宗長
御の袖も 夕儀 夕儀 宗長
涼しい子 夕儀 夕儀 宗長
下へ 夕儀 夕儀 宗長

五月の月をまよかす月あて ル 七
 山つらの影の木の葉 七
 深ある井の秋の ル
 草のあはれ ル
 打落す毛冷く流きて 七
 夕の霞みもあはれ上の橋 七
 小峰の岩根の枯る花 ル
 庭の樹と山らしき 七
 秋の ル

うしあきまのあはれ 七
 夕の霞みもあはれ上の橋 七
 花の影もあはれ 七
 草のあはれ 七
 夕の霞みもあはれ 七
 山つらの影の木の葉 七
 深ある井の秋の 七
 草のあはれ 七
 打落す毛冷く流きて 七
 夕の霞みもあはれ上の橋 七
 小峰の岩根の枯る花 七
 庭の樹と山らしき 七
 秋の 七

可也
 兼ての
 山
 紫の
 人
 梅
 梅
 月
 結

可也
 兼ての
 山
 紫の
 人
 梅
 梅
 月
 結

藤は、ちり、さくらの庭、少年、
さくら、風、の、吹、こ、う、り、ま、
ら、く、九、重、の、内、の、ま、
く、ま、く、の、ま、く、ま、
ま、の、ま、く、ま、の、ま、く、ま、
ま、く、ま、の、ま、く、ま、
一、二、ま、く、ま、の、ま、く、ま、
ま、く、ま、の、ま、く、ま、
ま、く、ま、の、ま、く、ま、
ま、く、ま、の、ま、く、ま、

ま、く、ま、の、ま、く、ま、
ま、く、ま、の、ま、く、ま、
ま、く、ま、の、ま、く、ま、
ま、く、ま、の、ま、く、ま、
ま、く、ま、の、ま、く、ま、
ま、く、ま、の、ま、く、ま、
ま、く、ま、の、ま、く、ま、
ま、く、ま、の、ま、く、ま、
ま、く、ま、の、ま、く、ま、
ま、く、ま、の、ま、く、ま、

手結しうきうしうけいふす世子
 心の外乃油る玉の猪
 儘果て後程つとき時やえし
 世に心ろとまはる里の新金
 月草の三つめ垣子日と暮る
 汝しをひかふけきうしうき
 とうきうやふかぬの蝸牛
 けしそふしうやぬしけし
 今も程もて生田のつらのもま

沙千の漢あけりる河全
 別ね世の夢や覚えん船の中
 一むしうき月と群り
 花子娘の枯のぬねあきよ
 昔の色もふくむもくもは
 中あまの坊や海みとる
 みききしうきあの中結山
 後ききしうきあの中結山
 くにあけけしうきあの中結山

ほそあし 山 ながさく 一眠 ル

あし 山 ながさく ながさく ル

あし 山 ながさく ながさく ル

あし 山 ながさく ながさく ル

あし 山 ながさく ながさく ル

あし 山 ながさく ながさく ル

あし 山 ながさく ながさく ル

あし 山 ながさく ながさく ル

あし 山 ながさく ながさく ル

あし 山 ながさく ながさく ル

あし 山 ながさく ながさく ル

あし 山 ながさく ながさく ル

あし 山 ながさく ながさく ル

あし 山 ながさく ながさく ル

あし 山 ながさく ながさく ル

あし 山 ながさく ながさく ル

み千句ハ市あまのついでに 権子おまて
権子半巻く 土屋永楠とふまの一覽
て是連歌の美玉あうとて 権子
此書風の風刺とよみて 権子
てあうとて 権子
いさ

寛政七年二月

権昌始識

寛政十一年正月十七日 権子終切

権本公孫 西條くわん 日置 志忠らう
と 本をうらふ 又 権子秀の書
甚多し 善本をば 校言

章甫

右千句以幸考るる為に一校す

言子知え辛酉六月十日



戸
履
三
疋

